

“中田瑞穂先生を偲ぶ集い・生誕百年”での偲ぶことば

註) 中田瑞穂先生は新潟大学の前身であった新潟医科大学「外科学教室」の教授であり、医学部附属「脳外科研究施設」の初代施設長であられた。先生は新潟でいち早く脳神経外科学を築きあげ、全国の神経学に極めて大きな影響を与えられた。

その中田先生は明治26(1893)年4月24日のお生まれであった。従って今年は、中田先生の数えての生誕百年にあたる。そこで外科学教室と、脳神経外科学部門など脳研究所の、相馬雄三、村上富吉、大溪一夫、鳥居俊夫、岡村 茂、杉山義昭、武藤輝一、生田房弘、江口昭治、岩渕 眞、田中隆一、そして俳句の会の、蒲原 宏、桜井浩治、山内春夫が発起人となり、「中田瑞穂先生を偲ぶ集い・生誕百年」を呼びかけた。

賛同された200名近い人々が本年6月27日(土)、まず「学問の静かに雪の降るは好き」の先生の句碑を脳研究所中庭に建立し、とめの奥様に除幕して戴いた(写真)。

また2日間にわたる先生の遺品と作品での「偲ぶ展」をイタリア軒画廊で開催した。

そしてこれら200名近い人々は同日イタリア軒にて、一輪の紫の鉄線に飾られた先生の遺影と、とめの奥様そして御遺族を囲み、静かに「偲ぶ集い」をもった。

この集いには、先生にゆかりの東京大学名誉教授豊倉康夫先生、東京医科歯科大学名誉教授萬年 甫先生、順天堂大学名誉教授橋本博太郎先生、東京大学名誉教授永井克孝先生が来賓として、馳せ参じて下さった。その集いでまず一同は、先生が“脳の plasticity など”と題して講演された時の御声をテープで耳にし、黙禱の後、御来賓の言葉を戴いた。紙面の都合でここでは順不同に



豊倉、萬年両先生のお言葉だけ集録させて戴くが、集いではさらにスライドやビデオで、在りし日の先生の面影や言葉を偲び、互いに心あたたまる感動の時を共にした。

(発起人一同)。